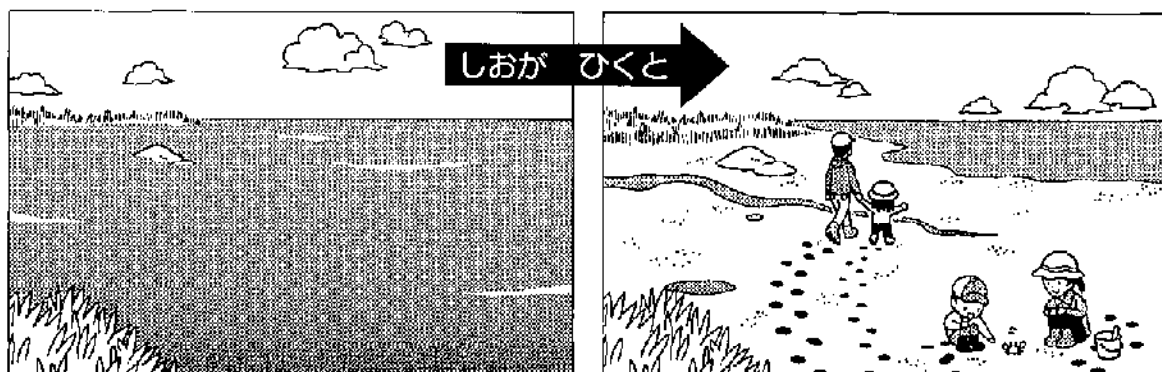


# わくわくはっけんニュース

## 干潟の生き物を観察してみよう

5月になりました。風も暖かく、浜辺の海水温も上がり始めるこの時期、干潮の時にあらわれる干潟では、さまざまな生き物たちの姿を見ることができます。日焼けや熱中症に注意して、干潟の生き物を観察してみましょう。

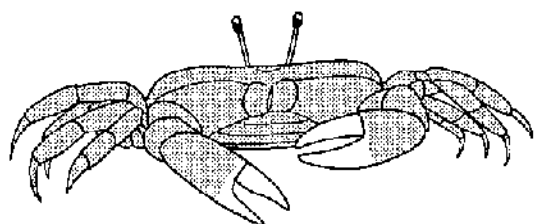
### 「ひがた」って どんな ところ？



ふだんは うみの なかだけれど しおが ひいた ときに すがたを あらわす すなと だろが まじった じめんだよ。 いろんな いきものの かんさつや しおひかりが できるよ。

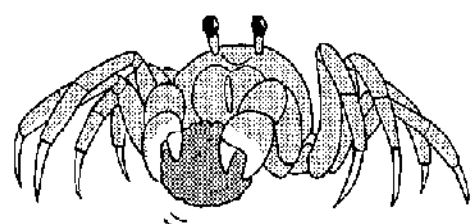
### ひがたで みられる いきもの

#### ヤマトオサガニ



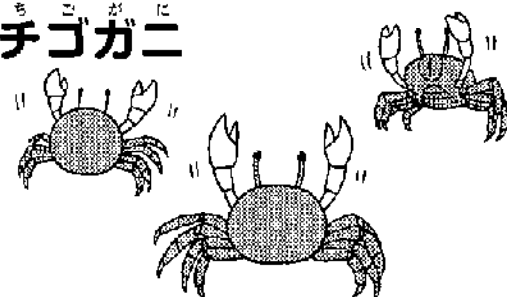
よこながの こうらと ながく つきでた めが とくちょう。

#### コメツキガニ



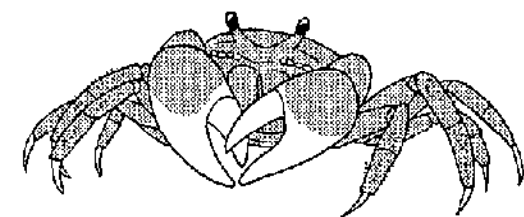
だろや すなで おだんごを つくるんだよ。

#### チゴガニ



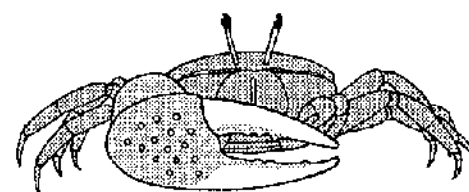
むれを つくって みんなで はさみを じょうげに ふるよ。

#### アシハラガニ



りょうほうとも はさみが おおきいよ。

#### シオマネキ



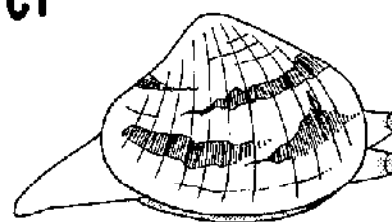
オスは かたほうの はさみが とても おおきく なるよ。

#### さかな



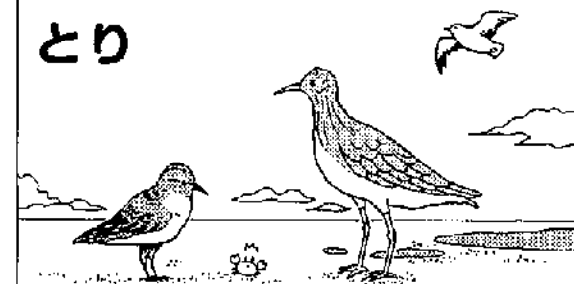
ハゼの なかまなどが いるよ。

#### かい



ひがたの だろの なかに もぐって いるよ。

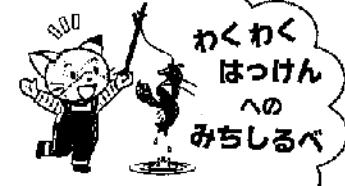
#### とり



ひがたの いきものを たべる ために とんで くるよ。

### ひがたに いく ときに きを つける こと

ひがたには ひかげが ないよ。ぼうしや かぜとおしの よい ながそでの ふくで ひやけを ふせごう。こまめに のみものを のんで ねっちゅうしょうを ふせごう。かいがらなどを ふんで けがを しないように ながぐつや うんどうぐつを はこう。



# わくわくはっけん ニュース

©少年写真新聞社2022年

## 5月は海の生き物の観察に適した季節

海で暮らす生き物は、ふつう水族館が実際に海の中に入らないと観察できません。しかし、磯の潮だまり(タイドプール)や干潟では、干潮の時には実際にそこで暮らしている生き物を、直接観察したり触ったりすることができます。また、潮干狩りなどは晩春から初夏がシーズンで、遠浅の浜では収穫するアサリやハマグリなどが見られますね。

1日の潮の干満差は、月の引力で起こり、干潮と満潮が2回あります。また、1か月の

潮の干満差は太陽と月の両方の影響を受けて起こり、最も干満差が激しく現れる数日を大潮といいます。5月は両方の組み合わせと季節変化によって、1日2回のうちの大きく潮が引く方の干潮が昼間に多くなり、大潮の日には特に大きく潮が引きます。

大きく潮が引いて海底が現れば、海の生き物の観察がしやすくなり、潮干狩りができるのもうなずけます。

参考: 気象庁Webサイトほか

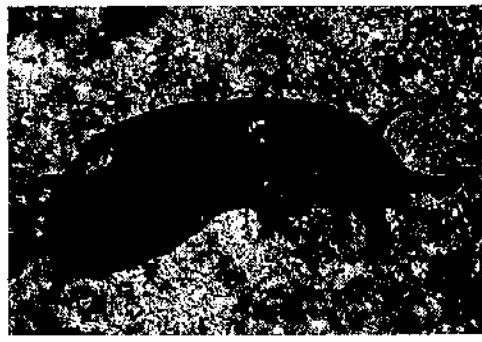
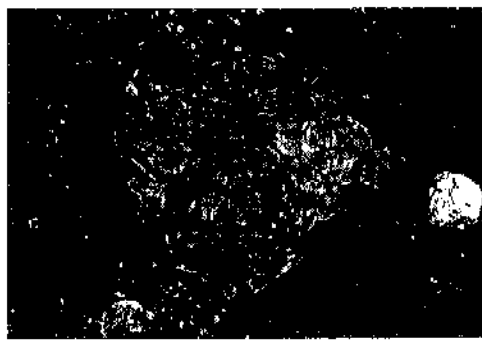
### わくわくはっけん! 海のそうめんは「卵のかたまり」

このときに、潮が引いた磯の潮だまりなどで、やや黄色っぽい“そうめん”のような“しらたき”のようなものを目に見ることがあります。これは、ウミウシなどの仲間に近いアメフラシの卵塊で、別名「ウミノウメン」といいます。

アメフラシは、このときは繁殖のために磯にやって来ます。比較的大きく、危険が迫ると雲のように紫色の液体を出すので、すぐに見つかります。雌雄同体で、体の中に「貝殻」があります。

潮だまりには、ほかにもいろいろな生き物が見つかるので、どんな生き物がいるのか、探してみてください。なお、毒を持つ生き物もいますので、素手では触らないようにしてください。

参考: [検索入門 海洋動物] 青村三郎著 伊藤勝敏写真 保育社刊 ほか



ウミノウメン(上)と、アメフラシ(下)。

### 今月のわくわく 身の回りの単位のお話(2)

「尺」という長さは、親指から中指までを広げた長さに由来する、中国でできた単位です。ただ、国や地域、用途などで1尺の長さは異なります。動画や音声などに使う「尺が長い」という言葉や、「尺取り虫」などは、この単位に由来します。

$$1 \text{ 尺 (日本の曲尺)} = 0.30303\text{m} = 30.303\text{cm} = \text{約 } 1 \text{ ft}$$

参考: [図解雑学 単位のしくみ] 森田誠二著 ナツメ社刊 ほか

## 干潟の砂泥に巣穴をつくるカニ

多くの生き物を育む干潟は、「海のゆりかご」と呼ばれます

### 干潟とは?

干潟は川の河口域などにできる砂泥地で、干潮時に底が見える場所です。ちなみに、熱帯、亜熱帯地方でよく見られるマングローブ林も、干潟につくられます。

全国各地に大小さまざまな干潟があり、多くの生き物が生息しています。潮の流れがあるので多くのプランクトンが集まり、それを餌にするカニや貝類、小さなエビや釣り餌にも使われるゴカイなどが集まってきます。また、大きな魚が生息できないことから、海藻が生え、やや水が残るところなどでいろいろな魚の稚魚などが見られます。

また、こういった小動物を餌とする鳥も多く集まります。渡り鳥なども、羽を休める場所として干潟に集まってきます。小さな生き物から大きな生き物までが集まり、生息することから、「海のゆりかご」と呼ばれます。

### 干潟に生息するカニ

干潟にはいろいろな生き物がいますが、その中でもカニの仲間は観察しやすい生き物です。干潟でもどちらかというと水の多い部分を好むヤマトオサガニや、群れではさみ脚を振り上げる(ウェーピング)姿が見られるチゴガニ、巣穴の周りにたくさんの砂団子をつくるコメツキガニ。また、岸に近いヨシ(アシ)林の近くに巣穴をつくるアシハラガニや、片方のはさみ脚が大きいシオマネキの仲間など、姿形もさまざまです。

危険が迫ると巣穴に潜ってしまうので、巣穴からのぞいているカニを見つけたら、じっとしていきましょう。やがて、はさみ脚を使って一心に餌を食べる姿が見られます。

### 干潟での観察時の注意

砂泥底なので、場所によってはかなり足を取られます。前述のカニの仲間は、足が埋まらない、普通に歩ける場所でも十分観察できます。砂泥中の水分が多く、足が深く埋まるような場所へは絶対に行かないでください。満潮時は水の下になる場所であることを十分に理解して行動し、干潮時刻だけではなく満潮時刻も調べておきましょう。

また、いろいろな生き物がいるので、当然毒を持った危険なものもいます。注意したいのはエイの仲間やゴンズイなどの毒針を持つ魚、カツオノエボシなどのクラゲの仲間などでしょうか。クラゲは死体でも触手の毒針は有効なので、絶対に触ってはいけません。

ウニや割れた貝殻、ガラスなどでけがをすることがあるので、肌が露出するビーチサンダルなどでは歩かないでください。ゴム長靴でもいいですが、脱げづらく、軽くて活動しやすいマリンシューズ(ウォーターシューズ)の方がいいでしょう。

また、気温が高く、紫外線が強くなっていく時期ですので、つばのある帽子、長袖、長ズボンを着用してください。遊びに夢中になっていると忘れがちになる水分補給も、小まめに行うようにしてください。

参考: [干潟の図鑑] (財)日本自然保護協会編 ポプラ社刊 ほか